



空気が震える程の轟音を響かせて

9月10日に第一保育所で「和太鼓体験」が行われました。園児たちは、始めに渋川雷太鼓の皆さんによる演奏を鑑賞。轟音と豪快なパフォーマンスにくぎ付けとなりました。その後、渋川雷太鼓の皆さんによる指導の下、各年齢ごとに和太鼓を演奏。どの園児も「ドンドンドン」という重厚なサウンドを奏で、とても貴重な体験となったようでした。

主な内容

秋のイベント情報	2	平成27年度拉致問題講演会	5
そば打ち体験で恋活を	6	歯周疾患検診のお知らせ	11

渋川ほっと人

伊香保を訪れた人に たくさんの魅力を伝えたい

中でも「遊友」は、富永さんが発足させたとあって特別な思い入れがある様子。伊香保を訪れる人たちにガイドとして付き添い、温泉地としての独特の歴史や文化を知つてもらい、たくさんの方々が「遊友」を立ち上げるよう日々奮闘しています。

富永さんが「遊友」を立ち上げたのは平成12年4月1日のこと。

「今では年間約280件くらいガイドの依頼があつて、やりがいがあるよ」と、柔軟な表情で語り始めてくれた富永精司さん。伊香保温泉観光ガイドの会「遊友」の会長や、群馬県観光ボランティアガイド連絡会会長を務め、伊香保の魅力や群馬の魅力を観光客などに伝えることに尽力されています。



富永精司さん
(伊香保町伊香保・85歳)

長年の観光振興への貢献実績が評価され、平成23年に群馬県総合表彰を受けました。今後も「遊友」の活躍から目が離せません。

他人事ではない「空き家」の話

4回掲載／第3回

空き家が問題となってしまう前に…

〈高齢化が招く空き家問題〉

昨今騒がれている高齢化問題ですが、その影響は空き家問題にも深刻な影響を与えています。子どもたちが別に生計をたて、親世帯と離れて暮らすことは珍しくありません。そのため、高齢者のみで暮らすケースが多くなり、最終的に空き家となってしまうことが増えています。このように、高齢化問題と空き家問題は深く関わっているのです。

〈空き家の適切な管理〉

空き家は、それ自体が問題なのではなく、適切に管理さえできていれば、問題にはなりません。管理できない状態にならないためには、空き家となる前から今後のこと、家族や専門家と相談しておくことが必要となってきます。

〈空き家管理の方法〉

空き家管理といつても、その方法はさまざまです。空き家の近くに親族などの協力者がいる場合は、管理や定期的な現状報告をお願いすることができます。

必要です。家族が遠くに住んでいる場合は、家族の間で役割を相談して定期的に足を運び、換気したり、庭木を刈り取るなどの管理が必要になります。なかなか家族の都合が付かず管理が難しい場合は、業者に委託したり、地域の人から状況報告してもらうことも一つの方法です。

このように、どの方法を選ぶかは家族の構成や居住場所によって異なります。また、相続などでトラブルになると、結果として放置されてしまうことが多く、空き家となってからでは相談しにくくなることも考えられます。そうならないために、空き家となる前から相談しておくことが必要です。

(本)防災安全課

市では、7月28日に宅地建物取引業協会と空き家等の利活用に関する協定を結びました。今後は協力体制を整え、空き家の市場への流通を促進していきます。

